

1. 科目名 (単位数)	心理演習 (2単位)	3. 科目番号	SPMP3355
2. 授業担当教員	平久江 薫		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア)心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域連携 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア)心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 (エ)多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	各講義の前に内容について復習をしておく。毎回の演習について事後に必ず自身を振り返っておく。レポート：心理学的支援の4つの柱について説明し、演習で得られた自身への気付きについて合わせて考察することを課題とする。詳細は講義終盤に通知する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定なし 【参考書】 福山 清蔵 著『入門カウンセリング ワークブック』日本・精神技術研究所		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢50%、課題レポート50%で判断する。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は心理学的支援について様々な科目で学んだことを実践的に統合する演習科目である。架空の事例だが、クライアントと自分自身に真摯に向き合うつもりで、積極的に演習に参加することを求める。初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明する。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価する。授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理支援とは何か。 障害除去のアプローチと内面アプローチの観点	事前学習	心理支援の目指すものについて復習しておく
		事後学習	感情的混乱とこだわりの処理の仕方について検討し、実際に確かめてみる
第2回	コミュニケーション①傾聴 話を正しく聴き取る→事実・感情・価値観 情動に耳を傾ける 非言語的コミュニケーション	事前学習	カウンセリングにおける傾聴についてこれまで学んだことを見直しておく
		事後学習	5つの技法について確認し、実生活でその効果を確かめてみる
第3回	コミュニケーション②アサーション DESC アイメッセージ 非言語的メッセージ	事前学習	自分のコミュニケーションについてその特徴について考えておく。
		事後学習	難しい問題についてDESCの考え方で表現し、その結果を見直してみる。
第4回	心理アセスメント①心理検査の実施 行動観察を含む心理アセスメント 正しく記録して、総合的な解釈をする	事前学習	自分でできる心理テストとなかなかできないものを選んでおく。
		事後学習	YGをやってみて自分の特徴を知ってみる。
第5回	心理アセスメント②心理検査結果の伝え方 心理アセスメントのフィードバックについて 本人並びに関係者にわかりやすい説明	事前学習	他者への説明の仕方について復習しておく。
		事後学習	5因子性格検査の結果を他者に説明してみても、気持ちよく聞けたか確かめてみる。
第6回	心理面接①認知行動療法の実施 ロールプレイにて学ぶ	事前学習	なぜ今の時代は認知行動療法が使われることが多いのか、調べておく。
		事後学習	友人相手にストレスと心の4つの面との関係について確認してみる。

第7回	心理面接②認知行動療法の振り返り いくつかの注意点を上げたワーク	事前学習	実際に自分がやった認知行動療法についてみなおしておく。
		事後学習	授業の中で指摘されたことをもう一度やってみる
第8回	地域支援 いじめの事件を取り上げ、問題点を検討する	事前学習	いじめの歴史的な変遷について調べておく。
		事後学習	事例についてもっと詳しく学んでみる。
第9回	医療領域での他職種連携①チーム医療とは	事前学習	DSM-5を読んでみる。
		事後学習	統合失調症とうつについて DSM-5 の見解を確認してみる。
第10回	医療領域での他職種連携②医師との連携（医師の指示に関する法的義務の実際）	事前学習	心理師の役割と医師の役割の違いについて整理しておく。
		事後学習	精神医学の言語や連携の取り方について復習し、まとめておく。
第11回	医療領域での他職種連携③アセスメント結果を他職種に伝えるロールプレイ	事前学習	他職種への心理的アセスメントの結果の共有において何が重要となるか考えておく。
		事後学習	ロールプレイを終えチームでの見立ての共有について振り返ったことをまとめておく。
第12回	チームアプローチ① 産業・労働におけるメンタルヘルスを検討する	事前学習	産業領域での今のメンタルヘルスの実態について考えておく。
		事後学習	メンタルヘルスが健全な職場になるためには、どのような対策が必要か考えてみる。
第13回	他職種連携及び地域連携 学校と児童相談所、地域との関係を考える	事前学習	他職種と共働していく必要があるとはどういうことか考えておく。
		事後学習	連携がうまくいくための条件について考えてみる
第14回	職業倫理及び法的義務への理解 インフォームドコンセント・人権擁護・守秘義務など。倫理ジレンマの乗り越え方を考える	事前学習	公認心理師が留意すべきことは何か、考えておく。
		事後学習	倫理ジレンマにはどのようなものがあるか、さらに考えてみる。
第15回	改めて心理的な支援のあり方を振り返る 学んだことのチェックをする	事前学習	ここまでの学んだことを全体として見直しておく。
		事後学習	アセスメントが正しくでき、心理面接がうまくいっても改善されない時には、どうことを考えたらよいか、考察してみる。